

令和 6 年度 第 3 回 亀山市図書館協議会 会議録

日 時 令和 7 年 2 月 20 日(木) 午後 2 時から午後 3 時 53 分まで

場 所 亀山市立図書館 1 階 多目的室

出席委員
岡野 裕行委員
井戸本 吉紀委員
横山 正委員
原 美津子委員
稲ヶ部 明香委員
下重 智子委員
服部 しづ子委員
川辺 一弘委員

欠席委員
田中 愛子委員
川口 恭子委員

事務局
亀山市教育委員会
教育部長 亀山 隆
図書館 館長 高重 京子
図書館 主幹 山川 美香
図書館 主査 大川 真梨子
図書館 主査 佐々木 孝英
図書館 主事(司書) 天野 史菜

■開会

1.あいさつ

【事務局】 令和 6 年度第 3 回 亀山市図書館協議会を開催する。
本協議会は、「亀山市立図書館条例」に基づき開催する。

(資料の確認)

【事務局】 事項書に基づき、会議終了は 15 時 30 分を目途に進めさせていただく。
ここからの進行については、亀山市立図書館条例施行規則第7条第2項の規定により、岡野会長にお願いする。

2. 報告事項

(1) 「図書館2歳のお誕生日をみんなで祝いしよう」報告について

【事務局】 事務局より説明

【原委員】 缶バッジは、大人にも好評だった。絵本の主人公などの絵柄で各々がお気に入りを見つけていた。

【服部委員】 クリアファイルをプレゼントするのは良い。
いろんなところでクリアファイルは配られるが、環境の観点を考えて、紙のクリアファイルにするなどの視点も必要かと思う。

(2) 令和6年度亀山市立図書館事業について

【事務局】 事務局より説明

【井戸本副会長】 資料裏の11月について、亀山高校のインターンシップが中止になった理由は何か。

【事務局】 今年度は日程調整の都合でなかった。来年度は予定している。

【井戸本副会長】 地元の高校なので積極的に連携していくと良い。図書館に通っている学生からも親しみを持ってもらえる。

【服部委員】 一年間の実績をまとめるなら、具体的な参加者数等も分かるように入れてもらえると令和5年度と比較しやすい。

【事務局】 6年度の実績として令和7年度の第1回図書館協議会にて提出する予定。

3. 協議事項

(1) 令和7年度亀山市立図書館事業（案）について

令和7年度 公益財団法人岡田文化財団公募助成について

【事務局】 事務局より説明

【井戸本副会長】 岡田文化財団の公募に挑戦したことは良い。予算確保は必要である。

「100周年を見据えて、過去を振り返る地域資料の提供」について、100周年を見据えて過去を大事にする視点は大事。資料収集として呼びかけると予想以上に資料が集まって整理が大変になる。市内の地域の郷土資料に詳しい方などに知恵を借りて整理していくと良いので検討してはどうか。

木材を使った一箱本棚のイベントは、本棚を作るところから一緒にやっていくという解釈であっているか。

【事務局】 亀山産材を使って、簡単な木工をすることも考えている。青年部等各所に声掛けし、調整していく。

【井戸本副会長】 ぜひ焼き印や塗りで加工して、外部でも活用できるようにすると良い。
また、周辺地域では、市立図書館になかなか行けないので、バスで周辺地域の人向けのツアーを設けるなど、大人向けの図書館を見に来る機会を作ると良さが伝わる。

- 【川辺委員】 地域の資料を集めるのは良いが、歴博と違うものにしないと意味がない。連携して進めてほしい。
- また、木材で本棚を作るイベントも良いが、段ボールで作ってみるのも良いのではないか。段ボールならば小学生でも作れて持って帰ることができる。これからの100年で、亀山の木材というなら、三重県の森林税、森林教育で冊子が県内小学生全部にわたっている。関連させて学びにつながると良い。
- 来年度くらいに、環境未来創造会議の成果を発表する場など、プレ集会を図書館事業と絡めてできないかと考えている。
- 【事務局】 段ボールを使用した本棚制作イベントは先日、2月11日に、写真家の中村ゆきこ氏、皇學館大学附属図書館ふみくら倶楽部の協力を得て開催した。段ボールや木材を使って行っていきたい。
- 【原委員】 以前、創作童話の審査をしていたが、なかなか応募作品が集まらなかった。一般の人だと特定の方が応募している状況で、裾野が広がっていなかった。今は図書館の事業となっているが、どれくらいの応募数があったのか。また、今の創作童話の規定は原稿用紙何枚分か。子どもにとっては文化や歴史をテーマの童話は難しいのではないか。
- 創作童話の募集について具体的な内容について聞きたい。
- 【事務局】 今年度は全国から59作品の応募があり、最優秀賞、優秀賞併せて6作品を表彰した。募集規定は400字詰め3枚で変わりなく、来年度以降も変えずに行う予定。
- 地元の子どもからの応募は多くないが、おはなしを書くことで子どもたちの感性や創造力を高め、読書活動にもつなげたい。作家さんからの講評や副賞を設けることで、裾野を広げていきたいと考えている。
- テーマについては、地域への愛着の視点で、地域の文化・歴史に触れることができるといいと考えている。副賞についても亀山ブランド品など特産品を考えている。
- 【原委員】 地域資料の活用について、忍山神社をもとにした絵本や、関の小万の話もジャンボ絵本にした。元資料を活用して図書館で上演することで広がっていて、人形劇の依頼が増えた。図書館イベントの反響がある。
- 講談師が関の小万の話をしたら、住んでいるところの話を知らなかったから知りたいという声もあった。地域に基づいたお話は「地域の資料の提供」につながる。
- 絵本と童話の会以外にも、そういったおはなしを持っている団体はあると思うので、「100年先の子どもへの繋ぎ」として活用していくと良いのではないか。
- 【横山委員】 講談師の話は地蔵院でのイベントのことだと思われる。
- 4月には、市民活動応援制度の冊子が出るので活用していただきたい。

- 語り部の会などもある。
- 【井戸本副会長】 創作童話の審査について、他市の手作りPOPコンテストで審査を経験したが、審査員の視点ではデジタル化が望ましい。
デジタルのフォーム入力で受け付けると、応募する子どもの割合は増えるかもしれない。審査の負担も減るので、検討してはどうか。
また、電子図書館に、入賞作品を電子化し、蔵書として市民がいつでも読めるようにするのは価値があると思う。
- 【原委員】 不揃いのフォントなど統一性がないと審査が大変。事前にフォームを決めておく方が審査の負担は減る。
- 【井戸本副会長】 応募が簡単になると、生成AIを使った作品や他者作品を使った応募は増えると思われる。対策は考えておく方が良い。
- 【稲ヶ部委員】 電子図書館について尋ねる。この電子書籍購入については、主に子ども向けの電子書籍を選書して入れていくということではどうか。
- 【事務局】 この秋から子どもたちがタブレットで一斉に読める「読み放題パック」を導入し、読書習慣、非認知能力の向上につながるようなコンテンツを入れていく予定である。
- 【稲ヶ部委員】 読み放題パックの購入にこだわるということではないということか。
助成金で電子書籍を購入するのも、テーマの中の取り組みの一つということでは間違いないか。
- 【事務局】 事業テーマに沿ったもので選書する。
- 【川辺委員】 読み放題パックの選書には学校司書を通すようにしてほしい。
- 【事務局】 前回の協議会後も関係部署に確認させていただいた。次回の選定には協議を持ちたい。
- 【岡野会長】 地域資料の収集は、集めるだけでなく、資料の活用まで見据えて考えることを推奨する。PR活動は大事。
一箱本棚作りについては、各所で取り組み例はある。本棚を作ることに對してメイカースペースを公共図書館に設置し、技術ノウハウを共有する場を図書館でという取り組みもある。成果物をアウトリーチ活動に役立てることは良い。本を外へ持って行き活用することは、本棚を作るのとは別のノウハウが必要になるが、人の交流促進に効果的である。

(2) 亀山市立図書館蔵書計画の改定について

- 【事務局】 事務局より説明
- 【稲ヶ部委員】 レファレンスについて、文言を追加して項目をわざわざ分けた理由は何か。
- 【事務局】 重複するところもあるため、意見を受けて改善する。

(3) 図書館の施設利用について

- 【事務局】 事務局より説明

- 【井戸本副会長】 この書き方だと使ってくださいという感じが弱いと思う。まずは気軽に使ってもらえることを書いてから禁止事項を書くといい。そうでないと市民の方に使ってもらえなくなる。
- 例えば、開催日時は図書館との日程調整になるため、最初に企画書に書くのは難しい。施設設備の適切な利用についても、プロジェクターや電源コンセント、Wi-Fi が使えることなども詳しく示した方が、使ったことのない方にもわかりやすく、使いやすい。
- 【事務局】 意見を受けて整理する。
- 【川辺委員】 井戸本副会長と同意見である。
- イベントは共催にしないといけないのか。図書館職員が団体のイベントにかかりきりになっては、本来の仕事ができなくなってしまう。催しをすることで人との交流や読書活動につながるので大事にはしてほしいが、全て共催にするより絞ったほうが良いのではないか。
- 貸館にしないという意味では、開催要件に明記することは必要。地域住民の交流促進については「みらい」との整理が必要。
- 図書館は賑わいのためのイベントはやらなくてもよいのではないか。「図書館の催しにふさわしいもの」に限定したら良いのではないか。
- 【井戸本副会長】 他団体の企画書を参考として例示するなど活用すると良い。
- 【事務局】 共催の要件について、記載の文言は検討する。
- 【井戸本副会長】 共催について、参考として多様なイベントを多く開催している図書館にノウハウ等を聞いてみるのも良い。友の会などが運営している例などを参考にすると良い。
- 【川辺委員】 第三者機関を作って運営してはどうか。職員の負担を減らし、市民参画を増やす意味でも効果的である。
- 【事務局】 共催について、貸館にあたる利用の問い合わせは今でも多い。そこは図書館の使い方として、そぐわないとしている。賑わい・交流への図書館の関与についてはまだ課題がある。検討は必要だが、図書館の基本理念にも交流は掲げている。職員の負担も課題として捉えつつ、ルールをオープンにして多くの方に使っていただく体制づくりを行っていく。図書館側がノウハウを積み重ねていく必要があると考え、新館開館以降、なるべく多くの経験を積むためにイベントの開催を断らずにどうすればできるかという方向性で来たという経緯もある。

(4) 令和5年度 亀山市立図書館利用者アンケート結果報告について

- 【事務局】 事務局より説明
- 【川辺委員】 基本構想の中で移動図書館を使わず読書活動拠点をを行うこととなった。これからの取り組みになるかと思う。
- ただこの結果からみても、来館手段が鉄道の利用者数は少ないということからも駅前に来たから市民が使いやすくなったとは言えないのではないかと。利用者

を広げていくには、市として市内全域でサービスを受けやすくすることを考えて
いってほしい。

予算の関係で本や雑誌を増やせないと思うが、配架で大きく印象は変わる。
ブラウジングで魅力ある本を見つけられるように工夫してほしい。

【原委員】

図書館の利用状況は、学習場所としての利用が多い。自分も図書館に受験勉強をしに行った印象が強い。今は通販も電子書籍もあって本が手に入りやすくなっており、図書館の本の貸出につなげるのは難しい。

この館の来館には様々な理由がある。生活の一部や図書館を拠点に市内を巡るのは良いのではないか。例えば、その時に興味のあるイベントが開催されていたら見ると思う。図書館の展示を見て市内のイベントを回るなど、読書のみでなく催しなど、図書館の存在が大きくなっている。目的は様々で、図書館利用の裾野が広がっている印象がある。飲食可やにぎやかなフロアなどもあり、従来の図書館のイメージから変えていけるのではないか。

【横山委員】

駐車場の満足度が低めである。入りづらいとか、駐車場はたくさんあったほうが使い勝手が良いという意見をよく聞く。

また、趣味の本の新刊を入れてほしいという意見を聞いている。

【井戸本副会長】

年代別クロス集計は初めてで間違いはないか。分析に役立てられる。

「来館目的」について、「イベント参加」や「調べもの」がそれぞれ4～5%で、これだけ多いのはすごいことである。

高校生の利用目的は学習でも来てもらったら勝ちで、来た人がたまたま本を借りるような仕掛けをすると良い。

ガラス越しなど、自然に本へ誘導する仕掛けをすると良い。

【服部委員】

図書館企画のイベントの中で、福袋がとても良かった。ワクワクする企画でとても良い。

【事務局】

中高生の回答数が少なく、優位性があまりないことを付け加えさせていただく。

【岡野会長】

折れ線グラフでなく棒グラフで、カラー印刷の方が良い。

4. その他

【事務局】

次回は令和7年5月中旬以降を予定している。

委員の皆様には、2年間お世話になり、ありがとうございました。

【閉会】